

2024 年 12 月 5 日

株式会社スマートバリュー

株式会社 One Bright KOBE

株式会社ストークス

神戸市

ウイングアーク 1 s t 株式会社

西日本旅客鉄道株式会社

株式会社ベスティ

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

TIS 株式会社

ネオス株式会社

株式会社ノースディテール

シナジーマーケティング株式会社

関西最大級のアリーナを基点とした新たなスマートシティモデル
まち全体でマーケティング活動を行う「**Commons Tech KOBE**」
10 社以上の民間企業と神戸市の産官連合にて、複数の取り組みを開始

株式会社 One Bright KOBE（本社：兵庫県神戸市、代表取締役社長 渋谷 順）を代表企業とし、ウイングアーク 1 s t 株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員 CEO 田中 潤）、西日本旅客鉄道株式会社（本社：大阪府大阪市、代表取締役社長 長谷川 一明）、株式会社ベスティ（本社：大阪府大阪市、代表取締役 江崎 仁祐）、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長 新納 啓介）、TIS 株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長 岡本 安史）、ネオス株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役 社長執行役員 池田 昌史）、シナジーマーケティング株式会社（本社：大阪府大阪市、代表取締役社長 兼 CEO 奥平 博史）、株式会社ノースディテール（本社：北海道札幌市、代表取締役 渋谷 順）、株式会社ストークス（本社：兵庫県西宮市、代表取締役社長 渋谷 順）の各社は、「アリーナ基点での ICT 基盤構築による神戸の新たなまちづくり（スマートシティ）・地域活性化」に向け、共同で取り組むことを発表致します。

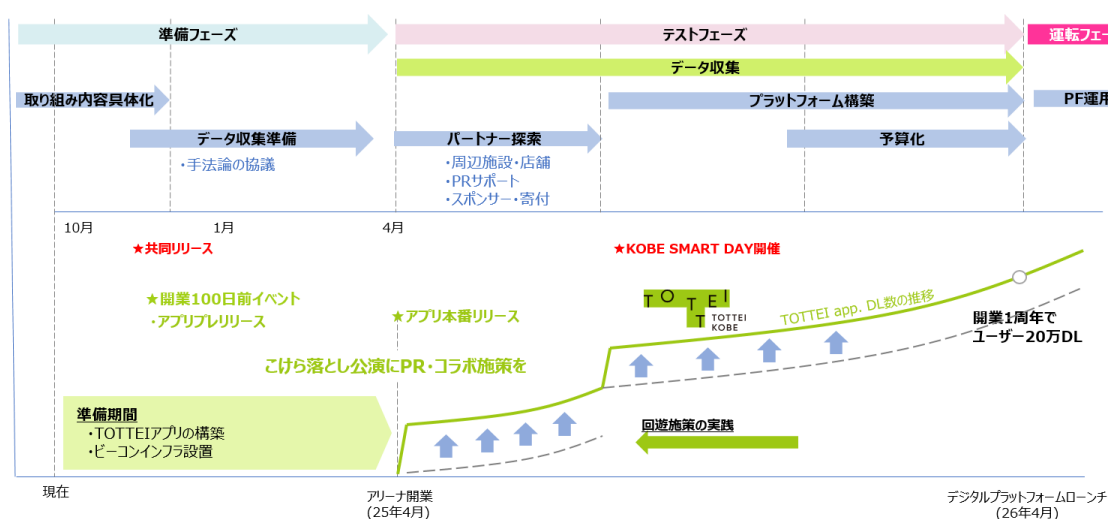
神戸ウォーターフロントに 2025 年 4 月に開業する「神戸アリーナプロジェクト（＊1）」の運営会社である One Bright KOBE は、神戸市と株式会社スマートバリュー（本社：大阪府大阪市、代表取締役社長 渋谷 順）が 2022 年に締結した「都心・ウォーターフロントエリアの未来づくり」に向けた事業連携協定に基づき、2023 年に発表したプロジェクト、「Commons Tech KOBE(コモンズテックコウベ)」をベースとして本取り組みを推進いたします。



●Commons Tech KOBE の取り組み内容

本アリーナが地域に根差して 50 年間運営していくにあたり、アリーナを起点としたスマートシティモデルの社会実装に取り組みます。初期フェーズは「来訪者の増加」と「まちの回遊性向上」にテーマを絞り、2024 年 12 月下旬に公開を予定する「TOTTEI KOBE（トッテイコウベ）アプリ（※2）」の活用や、まちなかで設置するビーコン等でデータを収集し活用します。アプリ内でのスタンプラリーや、ミッション機能によって、イベント目的で神戸に来た人々が、イベントの前後に神戸を満喫していただくことを目指します。その他にも地域の様々な事業者と連携した回遊性向上の施策や、来訪者の利便性向上につながる取り組みを並行しておこない、リアルタイムでさまざまな検証を繰り返すことができる基盤作りに取り組みます。

2025 年 4 月 GLION ARENA KOBE（ジーライオンアリーナ神戸）開業以降は、まちの活性化にむけた共通意識を高めるイベント「KOBE SMART DAY（仮）」の定期開催を予定します。これらを通して、まち全体でマーケティング活動を行うことを「Commons Tech KOBE」の主旨としてロードマップを作成しました。



本取り組みは、アリーナ開業初年度までをテストフェーズとし、2026 年 4 月に本格始動を予定

しています。テストフェーズでは、データ収集や、共同イベントの開催に加え、更なる参加団体、回遊施策を連携して行う企業の参画を募集します。

取り組み全体像



●神戸市コメント

新たなエンターテインメント拠点の誕生により、神戸への訪問者が増え、神戸の街を楽しむ関係人口の向上につながることを期待しています。今後、TOTTEI のオープンに合わせて、株式会社 One Bright KOBE と連携して「Commons Tech KOBE」に取り組み、人流解析などにより、都心・ウォーターフロントエリアの回遊性向上の実証を進めていきます。

●スマートバリューグループ 代表 渋谷順コメント

▼本プロジェクトでの役割

- ・神戸市と事業連携「都心・ウォーターフロントエリアの未来づくり」を締結しスマートシティの社会実装を推進
- ・神戸アリーナプロジェクトを基点とした ICT モデルの運営・TOTTEI KOBE アプリの企画運営

▼代表コメント

2022 年神戸市との連携協定を締結し、ツールだけを提供するサービス事業者ではなく、真にまちづくりの主体者として民間企業がリスクテイクしたスマートシティモデルの構築を目指して参りました。来訪される皆さまの利便性、そして感動や共感、お得など様々なワクワクを生み出すことを最優先として、地元自治体様と連携を育みながら民間企業・市民・教育機関など地域の主体者が一体となって新しい公を築き上げていくことがスマートシティの大前提であると考えています。

ここに賛同して頂く多くの企業様、そして神戸市様と一緒に Commons Tech KOBE を発表できましたことに感謝を申し上げますと共に、これからの長い道のりを更に強い絆でまちづくりにおける変革の能動者として歩んで頂けることを切に願っております。

●参画企業

1) ウイングアーク 1 s t 株式会社

▼本プロジェクトでの役割

- ・ Commons Tech KOBE の各種データを活用し神戸の街の回遊性を可視化する統合プラットフォームの提供
- ・ データ分析マーケティングプラットフォームのデータベースエンジン「Dr.Sum」と可視化ツール「MotionBoard」の提供
- ・ まちの活性化にむけた共通意識を高めるイベント「KOBE SMART DAY（仮）」の共同開催

▼代表コメント【代表取締役 社長執行役員 CEO 田中 潤】

ウイングアーク 1 s t がデータを活用した ICT 基盤構築を活用したスマートシティ構想に参画できますことを大変喜ばしく思います。当社のデータ活用テクノロジーと知見を活かし、神戸の新たなランドマークとなる「GLION ARENA KOBE」を中心に、神戸の街の人の流れや回遊性を向上させ、街の活性化を支援することで、神戸のさらなる発展に貢献してまいります。

2) 西日本旅客鉄道株式会社

▼本プロジェクトでの役割

- ・ TOTTEI への来場者を把握する AI カメラソリューションの提供
- ・ 三宮〜ウォーターフロントエリアでの人流を把握し、TOTTEI KOBE アプリと連携できるビーコンインフラの構築
- ・ 回遊施策推進に資する、自社アセットの利活用検討

▼代表者コメント【理事 近畿統括本部兵庫支社長 國弘 正治】

Commons Tech KOBE プロジェクト本格稼働に際し、JR 西日本がメンバーとして参画できますこと、大変喜ばしく思います。鉄道事業者としての強みを発揮しつつ、新たな経営の柱に位置付けているデータソリューションの力も存分に駆使しながら、「人、まち、社会のつながりを進化させ、心を動かす。未来を動かす。」の実現により、神戸エリアの持続的な発展に貢献してまいります。

3) 株式会社ベスティ

▼本プロジェクトでの役割

- ・ イベントと連動した街中の回遊施策の企画、実行
- ・ ウォーターフロントでのイベントの地域 PR 活動の実施

▼代表者コメント【代表取締役 江崎 仁祐】

メディア企業として、スポーツを中心に五感をフルに使って楽しめるイベントやコンテンツを制作することで「Commons Tech KOBE」をサポートします。TOTTEI に行けば新しい何かと「出会える」「体験できる」「味わえる」。来訪者がワクワクするような話題を本プロジェクトで発信し

てまいります。

4) あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

▼本プロジェクトでの役割

- ・来訪者が安全・安心して来場、回遊できる場の提供に向けた商品、サービスや情報発信の検討。

▼代表コメント【取締役専務執行役員 旭 正道】

「Commons Tech KOBE」の一員として神戸の新たな魅力づくりに貢献できることを大変喜ばしく思います。GLION ARENA KOBEを中心に、「人與人」「人とまち」が安全・安心につながり、地域全体の持続的な発展に貢献できるよう、強みであるリスクマネジメントの知見・ノウハウや、テレマティクス技術等で培ったデジタルソリューションの活用等を具体的な検討を通じ実践に向けて取り組んでまいります。

5) TIS 株式会社

▼本プロジェクトでの役割

- ・TOTTEI KOBE アプリに搭載する決済機能（TOTTEI PAY）の実現を支える、決済を起点とした顧客行動可視化サービス「キャクシル」の提供
- ・神戸市での決済利用状況を活用した人流データの提供
- ・アリーナ、神戸市への来訪者や加盟店への決済体験、および回遊性向上に向けたデータ利活用施策の検討

▼代表コメント【常務執行役員 デジタルイノベーション副事業本部長 音喜多 功】

神戸市を舞台に進行する「Commons Tech KOBE」プロジェクトに参画できることを大変光栄に感じています。当社はGLION ARENA KOBEでのキャッシュレス体験を支えつつ、顧客行動可視化サービス「キャクシル」を通じて得たデータを活用することで、訪れる方々に新たな体験を提供し、街全体の価値向上に寄与してまいります。このプロジェクトが、日本全国に広がる新しい都市づくりのモデルケースとなることを期待しています。

6) ネオス株式会社

▼本プロジェクトでの役割

- ・回遊性向上につながるスタンプラリー機能の提供
- ・TOTTEI KOBE アプリと連携したエリア周辺施設の情報登録。
- ・TOTTEI KOBE アプリと地域商店街と連携した回遊施策の企画、実行
(店舗のクーポン、地域のキャンペーン登録)

▼代表コメント【代表取締役 社長執行役員 池田 昌史】

地域を挙げた画期的なプロジェクトに参画できることを心より光栄に思います。当社が培ってきたB to C サービスソリューションのノウハウや、Web・アプリの開発技術を活かし、地域の魅力を伝えるコンテンツや情報プラットフォームの提供を通じてスマートシティモデルの実現に尽力してまいります。来訪者の皆様と地域の方々に新たな体験価値を提供し、神戸市

のさらなる発展に寄与できることを楽しみにしております。

7) シナジーマーケティング株式会社

▼本プロジェクトでの役割

- ・マーケティング SaaS「Synergy!」による CRM 基盤の提供
- ・TOTTEI ID を活用したファンマーケティングの企画、実行

▼代表コメント【代表取締役社長 兼 CEO 奥平 博史】

「Commons Tech KOBE」プロジェクトへの参画の機会を得られたことを、心から嬉しく思っております。当社は、コンサートやスポーツイベントだけでなく、多様な目的で来訪される方々に対して、「また TOTTEI・神戸にきたい」と思っていたいただけるような、「TOTTEI ファン」を創出するべく、当社が 20 年以上にわたり培ってきた CRM の豊富なノウハウを注ぎ込んで、本プロジェクトを共に推進してまいります。

8) 株式会社ノースディテール（スマートバリューグループ）

▼本プロジェクトでの役割

- ・TOTTEI KOBE アプリ及び、データベースの開発、運用、継続的な機能強化

9) 株式会社ストークス（スマートバリューグループ）

▼本プロジェクトでの役割

- ・GLION ARENA KOBE における神戸ストークスのホームゲーム開催時のデータ提供
- ・回遊施策、「KOBE SMART DAY」の共同実施

参考資料

（＊１）神戸アリーナプロジェクトについて

神戸アリーナプロジェクトは、神戸市が 2020 年に公募した新港突堤西地区（第 2 突堤）再開発事業における、スマートバリューと NTT 都市開発株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長 池田 康）、株式会社 NTT ドコモ（本社：東京都千代田区、代表取締役社長 前田 義晃）の 3 社企業コンソーシアムによる民設民営のアリーナ創出プロジェクトです。

スマートバリューは 2022 年 8 月に「都心・ウォーターフロントエリアの未来づくり」に向けた事業連携協定を神戸市と締結し、次世代アリーナを基点とした周辺エリアへの回遊性向上やデジタルイノベーションの社会実装・産官学共創による地域活性化への貢献を目指しています。



新港第二突堤エリア（愛称：TOTTEI）イメージ

One Bright KOBE は、神戸アリーナプロジェクトの運営企業として「この世界の心拍数を、上げていく。」を存在意義に、阪神淡路大震災より 30 年目の節目に誕生する GLION ARENA KOBE を基点に日常的なにぎわいづくりに取り組みます。アリーナは、開業後に B.LEAGUE 「神戸ストークス」のホームアリーナとなるほか、音楽コンサート、MICE などさまざまなイベントの開催を予定しています。

(＊2) TOTTEI KOBE アプリについて

TOTTEI 内と、イベント前後の神戸での体験を最大限拡張することを目的とした、新たなベニューアプリです。気になるイベントを探せる「イベント情報機能」や「チケット機能」は勿論、独自のキャッシュレス基盤である「TOTTEI Pay」に、様々なミッションを通じて、マイルやクーポン、バッジが発行される機能等を実装予定です。12 月にベータ版をリリースし、2025 年 3 月に完全版のローンチを予定しております。